

潮江宏三教授退任記念展
銅版画師ウィリアム・ブレイク

WILLIAM BLAKE

as an Engraver

2011.12.14(Wed.) - 12.25(Sun.)

11:00 ~ 19:00 (最終入場 18:45)

京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA1

月曜休廊 / 入場無料



ブレイク作ヤング『夜想』銅版画挿絵集(1797)より

イギリスの画家・詩人として知られるウィリアム・ブレイク (1757-1827) は、銅版画師を職業として選び、それによって日々の糧の多くを得ていた。すでに少年時代に絵の勉強も始めていたが、銅版画師の親方の下に徒弟に入り、修行を通してその職業にふさわしい技量を身に着けた。その間、彼は詩作も始め、徒弟の年季が明けた年には画家の道を目指してロイヤルアカデミーの学校にも通った。しかし、彼自身の生活を実質的に支えていたのは、明らかに商業版画の仕事であった。特に若い時期はそうだった。それだけでなく、自分自身の詩作の公開手段として考案された「彩飾本」という媒体の開発も、銅版画師としての技術的知識なくしては考えられない。というよりむしろ、彼自身の文学的成果のほとんどがこの媒体を用いて公開されたことは忘却されてはならない。絵画作品に目を転じて、ブレイク中期の傑作《ニュートン》や《ネブカドネザル》で知られる大色彩版画の連作は、この「彩飾本」制作の最終的成果の一つ、それも大きな一つなのだ。つまり、彼が銅版画師だったことは、彼の技術的発想のみならず、その芸術思考に大きな刻印を残したということになる。それには、プラス面だけでなく、マイナス面もなかったわけではないが、そうしたものを克服して、彼は、複製版画という商業版画の軛から自らを解き放ち、オリジナル銅版画の分野でも大きな成果を残すことになる。本展覧会では、ブレイクのそうした面の、ほんの一端でも紹介できたらと願っている。また、ごくささやかな個人的な展示なので、オリジナル作品だけではなく、ファクシミルの助けを借りていることもご容赦願いたい。

— 本記念展覧会の他に別途記念講演会も開催します —

潮江宏三教授退任記念講演会「西洋美術逍遙」

2012年1月31日 午後2時～4時 京都市立芸術大学第1講義室

潮江宏三 (SHIOE Kozo) : 西洋美術史、芸術学。1947 香川県丸亀市生まれ。

京都市立芸術大学教授 / 前京都市立芸術大学学長 / 現京都市美術館館長。文学博士。

主な著書: 1977 『シャガール』編著 (小学館、「パンドラ・シリーズ」) / 1978 『ブレイク』編著 (講談社、「世界の素描」) 1987 『現代芸術のトポロジー』共著 (勁草書房) / 1989 『銅版画師ウィリアム・ブレイク』(京都書院)、『芸術学ハンドブック』共編著 (勁草書房)、『西洋の美術—新しい視座から』共編著 (昭和堂) / 1992 『西洋の美術』共編著 (勁草書房) / 1994 『北方ヨーロッパの美術』共著 (岩波書店) / 1995 『美術史における日本と西洋 国際美術史学会東京会議1991』共著 (中央公論美術出版社) / 1999 『芸術における近代』共著 (ミネルヴァ書房) / 2002 『美と芸術のシュンボシオン』共著 (勁草書房)

【関連イベント】

ギャラリー・トーク	12月17日(土)	午後1時
	12月23日(金・祝)	午後1時
オープニングイベント	12月17日(土)	午後3時

【同時開催】

可塑的な抵抗: Plasticity and Civil Disobedience (@KCUA2 ほか)
12月15日(木) - 25日(日)

【次回展のお知らせ】

内藤英治教授退官記念展 2012年1月6日(金) - 15日(日)
若手型染作家展 2012年1月6日(金) - 15日(日)



地下鉄「二条城前」駅(2番出口)徒歩約3分
市バス「堀川御池」バス停下車すぐ

京都市中京区油小路通御池押油小路町238-1
〒604-0052 <http://www.kcuu.ac.jp/gallery/>

お問い合わせ 教務学生支援室事業推進担当
tel.075-334-2204

@KCUA

KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY
京都市立芸術大学ギャラリー・アーク [堀川御池ギャラリー内]